

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 古賀貞雄 編集者 西尾 達



「あ〜っ 笑った!!」
第2ひまわり保育園 柳田 留美



「3、2、1…キヤー!」
光應寺保育園 磯野 舞



「草の上もどこまでも」
原西保育園 北口 雄也



「アッペンめざすぞーヤッホー」
しあわせな木保育園 高倉 華代

こどもの えがお展 より

(10月28日~11月1日)
ソラリアプラザ1F ゼファア

※市民賞は来場者投票で選ばれました



「おちばのシャワーだ!1・2・3!!」
しおばる保育園 内田 委久予



平成27年度

2号

vol.110

補助金問題	2
保育士会のページ	4
青年部活動紹介	5
新園紹介	6
リレー回想	7
「今、旬」	8

「子ども・子育て新制度の問題点」はYouTube(You Tube)でご覧いただけます。
※PCだけでなくi-phone などのスマートフォンからも見る事ができます。

「新制度」の詳しい内容については

ほいくせいど

検索

を、クリック!



「どうなる、三つの補助金！」

福岡市保育協会は、これまで、福岡市との強い信頼関係と協力関係を土台に、「待機児童解消」さらには「保育の質の維持・向上」と「保護者や地域住民から求められている子育て支援の推進」という保育行政の重要課題達成に向け、努力を進めてまいりました。

しかし、本年一月に福岡市子ども未来局より、「子ども子育て支援新制度」において認可保育園に対する委託費のしくみが変更されることを理由に、従来の福岡市保育協会補助金の一部（長時間保育手当、被服・研修費手当）を削減したいとの提案が突然なされました。このため、現在第一回目から第三回目の補助金交付が一方的に停止されている状況です。

このことは、待機児童解消に向けた保育施設の増加に伴う、人材確保の困難さに追い打ちをかけるものです。本来であれば、保育の質を堅持しつつ、待機児童解消のために大幅な職員処遇の改善を図り、人材確保に尽力することが求められるはずですが、福岡市が提案している補助金の削減は、職員処遇を大幅に低下させ、「子ども子育て支援新制度」を推進する国の保育政策や社会の要請に大きく逆行するもので、見直しが必要と考えます。

そこで、福岡市保育協会は、去る五月二十七日市役所にて記者会見を開き、補助金の一部削減に対し意見を表明しました。福岡市も直後に記者会見を開き、石橋子ども未来局長は「税金なので、市民が納得する形にしたい」と述べ公の場で意見の相違が明確になったのです。

さらに、五月三十日には福岡国際ホールにて、保護者、保育園関係者、市議会議員の方々等総勢九百名近い参加者と共に「子どもと保育園職員の処遇を守る決起大会」を開催しました。一方、高島宗一郎市長は六月二日の定例

記者会見において、外部の有識者でつくる委員会を設ける意向を表明し、「大切な問題なので、議会と専門家の意見を参考に私が最終的に判断したい」と述べ、四回の検討委員会が開催されました。

第一回検討委員会 八月五日

福岡市私立保育士会副会長 安藤 ゆり

福岡市私立保育士会は、市内の全ての認可保育園に所属した保育士・給食職員、三千五百八十四名が登録しています。福岡市保育協会と連携し、ご支援いただきながら、福岡市の子どもの最善の利益を願い、保育士の専門性の確立と資質向上、子育て文化の再構築をめざし、研修や情報の共有を中心に活動を行っています。

私たちがお預かりしているのは、0歳から就学前の「人間形成の根っこが育つ」重要な時期のお子さんです。その子たちが、将来どのような生き方をするのか、どんな人間に育つのかは、私たちの行う保育にかかっています。ひいては、これからの福岡市を背負う子どもがどう育つかは、0歳から就学前の保育がどのように行われるにかかっていると言っても過言ではありません。

私たち保育士は、いろんなものを乗り越えていく強い「心情」やこれから生きていくために必要な「意欲」、チャレンジしてみようとする「態度」、友達を作ったり助けを求めたりするコミュニケーションの取り方など、科学的知識と実践知によって、どのような遊びや活動の中でそれが培っていくのかを考え保育しています。

また、保護者の就労支援や厳しい社会の中で心疾患を患う保護者、そして生活に困窮しながら時間的・心理的にも余裕のない保護者の支援も行っているのです。こうした様々な業務を園児の安全を確保



えましたが、保育士不足のため、職員の補充もできず、実質上、今まで以上に勤務時間を超えてしまう現状です。園児のモデルとして、豊かではつらつとしていなければいけない、保育士の心と体が疲弊している現状をお分かりいただけるのではないのでしょうか。

最後に、福岡市の研修体制の素晴らしさ、他県にはない正規職員八割の努力義務、また長時間保育手当が、福岡市などの保育園職員にも均等に支給されている、福岡市の子育てに対する意識の高さを誇りに思います。しかし今回、長時間保育手当、被服・研修費手当が保留になったことで、補助金によって守られていた私たちの処遇が、今後、園によってばらつきが出て、子どもたちの保育に格差が出るという懸念を抱かざるを得ません。子どもの将来を保障する最後の砦である「保育士」の処遇を守って下さい。

第二回検討委員会 八月二十五日

福岡市保育協会理事長 古賀 貞雄

本題のふたつの削減項目について述べます。

被服・研修費は、包括外部監査で指摘されたの削減提案でした。監査委員の指摘は、「補助が投げ渡しになっていること、実際に使われているかどうか確認でき

しながら、常に緊張を強いられたい状態をこなさなければなりません。このように業務が多岐にわたってしまいうため、勤務時間内に終わることができないことも多々あります。さらには、今年から新制度が始まり、土曜日の勤務が少なくとも二時間増えましたが、職員は勤務時間を超えてしまっています。長時間保育手当は職員が実際に通常の勤務時間以外の時間に従事することに伴う手当としてではなく、職員の処遇改善費として支給される手当であること。したがって、通常の時間外手当としては執行できない。」と書かれています。

この条文から、「長時間保育手当」が「職員の処遇費」として位置づけられているということがお分かりになると思います。しかも、要綱の頭に「福岡市」とついていることから、福岡市が作成したものであることも了解されるでしょう。

この手当は、職員一人ひとりに直接渡す手当であり、この補助の仕方は他の自治体にはない福岡市の素晴らしい制度です。次に、延長保育促進事業の補助金について述べます。十一時間開所するための基本費用として、全国の自治体では四百六十万円の雇用費を保育士の配置のために各園に支給してきました。しかし、福岡市では他都市のように満額の四百六十万円は支給されずその一部の百二十万円でした。

他の自治体では、すでに十一時間開所のための職員配置がされており、新たな雇用は発生せず福岡市のように問題になることはありません。新制度が開始された平成二十七年年度から福岡市においても他の自治体と同じように満額の四百六十万円が支給され、職員配置が増えることを期待していたのです。市からの長時間保育手当の廃止提案がなければ、大幅な処遇の改善になるはずでした。次に、保育標準時間認定保育士について述べます。新制度では新たに保育標準時間



の保育士を一名配置することになつています。しかも、常勤の保育士を充てることになつています。まさに四百六十万円は、その十一時間開所を確保するために常

勤保育士を一名雇用するための経費なのです。これを本来の目的とは違う「長時間保育手当」に充てると、福岡市だけが全国の自治体並みの保育士の配置が出来ないことになりま

す。次に、署名活動と決起大会について削減撤回要望の決起大会を開催し、約九百名の保護者、保育園関係者、市議会議員の皆様方の参加を得て会は大成功でした。さらに、署名活動を行い十三万三千七百九十二名の署名が集まり、荒瀬副市長に手渡ししました。荒瀬副市長は「今後も保育協会と協議をしていきます」と応えてくださいました。

最後に、保育の質を守るために今、保育園では職員一人ひとりが保育の質の向上を目指して、一生懸命日々頑張っています。このような補助金削減は、保育士たちの意欲を大きく損ないかねません。また、今後の求人動向にも影響が出るのではないかと大変危惧しているところです。

今、保育園にとって一番重要なことは、保育の質、そのための処遇の改善・充実、そして人材の確保に努めることでありま

いく上で、この正規八割と直接補助を守り維持していくことが、今こそ求められています。

最後になりますが、この職員処遇改善費の削減は、人材確保、保育士不足に重大な影響を与え、現在働いている職員のモチベーションの低下を招くことを、再度強調して私からの意見を終わります。

第三回検討委員会 九月二十九日

福岡市保育協会広報調査部長 西尾 達

本日は、「あり方検討委員会」における一番の争点、「補助金は二重払いになるのか？」に関する問題に絞って述べることにします。

石橋局長が話されたことで気になる論点がいくつかあります。時間の関係上、三点に整理して述べます。

まず第一点。それは、九時から十七時までの開所時間を延長するための仕組みとして、そのインセンティブとして長時間保育手当という制度を設けたという主張です。しかし、勤務の時間帯が単に移動しただけで、長時間保育手当は十一時間開所の穴埋めになつていないのです。さらに、時間差勤務をする賃金保育士や十一時間開所に関係しない正規調理員にも支給されており、長時間保育手当は、職員に対する処遇改善費であつたということが明白であると思ひます。

次に第二点。「保育協会の主張を認めるならば、福岡市の中にはたくさん貢献している企業、団体があるが、給与水準、従業員確保が困難なところに、補助金を出さなくてはならなくなる」という点です。児童福祉法第二十四条第一項に、「保育の実施義務は市町村にある」と書かれています。われわれ福岡市保育協会加盟園は、福岡市の委託を受けて保育を実施しているのです。他の委託とは違うものだと考えます。福岡市の子どもを守る、保育士を守る、このことが福岡市、いや日本の将来を切り開くものであると思うのです。

をやつていた。」と言われた点です。「三百二十万で福岡市はやつて来た」と自信を持つて言われても、困ります。各園では、残業代等、園の持ち出しと二百二十万でこの制度をやつて来たのです。新制度になり、保育士が増えることで職場の労働環境の改善をうみ、保育の質の向上につながります。他の自治体は従来から四百六十万が出ていたので、福岡市のように新たな雇用問題などというものは生じません。

石橋局長は、「対応できるかできないかは、経営の問題だ、ここで媒介する変数というのが、経営です。我々は、二重には払えません。(四百六十万)その中で経営をやつていただきたい。」と主張されました。つまり、石橋局長の主張は、「新制度になつても、福岡市だけは、十一時間開所を、四百六十万から二百万肩代わりした残りの二百六十万で行う。そのため常勤保育士を充てずに、短時間保育士を常勤換算して対応すれば、四百六十万の中から二百万を捻出できる。それが、経営だ」ということになりま

す。しかし、内閣府の「よくある質問集」やこども未来局長通知(指監第三百四十三号)においても、「常勤保育士の配置が望ましい」とされています。さらに、福岡市においては、保育標準時間認定園に対する加配を八割正職の対象とされています。それなのに、長時間保育手当二百万を各園に負担させるため

に、短時間保育士の常勤換算を推奨されるとすれば本末転倒です。

あり方検討委員会において我々に与えられた時間はあまりにも短く、満足いく意見発表になつていないことが本当に残念です。こうした



論点を一つ一つ議論して結論を導き出してほしいと思ひます。最後になりますが、私たちは、これまでの福岡方式をさらに発展させ、より一層の保育士の処遇改善や労働環境整備を推進していただくことを希望して、保育協会からの意見陳述を終わります。

保育協会補助金の

動向と今後の対応

四回の検討委員会を振り返って

予算運営管理部長 古賀 一郎

「長時間保育手当」に対する「あり方検討委員会」の出した結論は、「補助金は廃止する」でした。第三回目まで、私たちは、保育士へ福岡市から給与の上乗せとして出されてきた手当は、福岡市の保育の質を守つてきたことを何度も主張してきました。しかし、「保育士の処遇を守るには、賃金だけではない、労働環境も大切だ」などと主張する委員も現れ、論点が次第にすり替えられています。労働環境を守ることは当然のことですが、今回の論点は、「長時間保育手当」が新制度の中でどのよう位置づけられるかが問題でした。結局、「長時間保育手当」の根拠になつて福岡市が定めた補助金の要綱は、現状にそぐわないものになつていたので、廃止すると結論付けられました。委員の皆さんは、最後まで一部の委員を除き、「長時間保育手当」という名称に惑わされたというか、理解できていかなかったと思ひます。保育園の開所時間が八時間から、現在の十一時間となり、職員への負担は増えました。「長時間保育手当」が始められた当初はこうした労働の大変さに対する手当でした。しかし、その後この手当の性格は、保育園職員の処遇を改善するものへと変わつています。そのため福岡市内の保育園職員は他の自治体の保育園職員より高い賃金になつています。これが廃止されたのです。「廃止」したあと、それに代わるものをどう作つていくのか? またまた困難な道が続きそうです。

保育士会のページ

笑顔があふれる保育園

～玉川・西都・平尾・星の子・豊庄保育園～ こどものえがお展出品作品から選び、原稿を依頼しました。

『パパ大好き』
玉川保育園

3歳になると、失敗したくない、負けたくないという気持ちが出てきて、運動会本番は緊張した表情の子が多くみられます。この日も、硬い表情の子が多く、子どもの照れた表情や、緊張した表情が多く撮れました。

子どもだけで参加する競技を終えて、親子競技になると、子どもの表情はやわらなくなってきました。

大好きなパパに抱っこされて入場すると、競技が始まる前から、素敵な笑顔が溢れ出しました。いつもは、弟に譲ってあげるパパの抱っこを、この時間は、独り占め出来た事で、パパの顔ばかり見ながらの入場でした。

子どもの作っていない表情が撮りたくて、望遠レンズで遠くからカメラを構えていた時に、撮れた一枚です。



『どっちがおおきい』
西都保育園



「あーかめがいる」と子どもたちの声が園庭に響きます。保育園で育てているかめを日光浴の為、水槽から出すとかめもお散歩。その姿を見て子どもたちも「早いねー」「こっちおいで」など声をかけ、並んで歩いたり、顔を近づけたりと積極的にかめと触れ合っていました。気づくとペランダでひとやすみしているかめ。日光浴の為、首を伸ばしている姿がいつもと違うので大きく見えたのでしよう。自分からかめの横に寝転んで、「先生、どっちがおおきい」「と一言。」「○○くんよ」と答えると嬉しそうに笑っていました。

『ほら、さくらんぼだよ』
平尾保育園

平尾保育園の園庭には、一本のさくらんぼの木があります。秋には赤い葉に色つき、冬には葉を落とし、枝があらわになります。春には緑の葉が茂り、花が咲き、やがて実をつけるのです。

子ども達は、自然の移り行く様を日々見つめながら、「小さい青いさくらんぼがあるよ」「赤くなつこうよ」「もう取ってもいいかな」と収穫の日を指折り数えて待っています。

枝を握りしめ、「今から収穫するぞ!!」と嬉しそうな表情の年長児。

以上児さんが交代で、さくらんぼの収穫開始です。たくさん取れたさくらんぼは、おやつにみんなでいただきました。来年も、甘くて赤いかわいさくらんぼが楽しめますように。



『まるまるころりん』
星の子保育園



星の子保育園0歳児クラスのリんちゃんです。

撮影時期は7月で、当時は10ヶ月でした。初めて両親から離れての生活に4月の入園した頃は涙ぐむ日もありましたが、3ヶ月が経ち保育士やお友だちと一緒に遊ぶ中で今では毎日、笑顔で楽しく過ごせるようになりました。保育の中でも手先を使った活動を取り入れていく事で少しずつ遊び方も分かり、シールを貼ったり剥がしたり、手作り玩具のホース落とし等も大満足で夢中になって遊んでいます。この写真はプールの中でボール遊びをしている様子です。以前はなかなか掴めなかったボールも今はしっかりと両手に持つことが出来て喜んでいる様子です。笑顔がとっても可愛くて、私たち保育士も癒される写真です。

『これが、0歳!』
豊庄保育園



0歳児の保育室です。入園して2か月半ほどが経った6月中旬。何かを見つけるとすぐにハイハイをして近くにかつてきます。この時見つけたのが何だったのか忘れませんが、実に好奇心旺盛な二人です。一人は力メツに気づき、こちらに熱い視線を送り、一人は今にも立ち上がりそうです。一方、後ろでは泣いている子がいます。こちらは抱っこをしてほしくて、全身の力を振り絞って保育士に訴えています。三者三様ですが、これが、0歳なのかもしれせん。0歳児は月齢の差を大きく感じる年齢です。しかし、年度の終わりころになると、それほど変わらなくなるから不思議です。

変わらない風景



忘れもしない二〇一一年三月十一日から四年の歳月が流れた。私たち福岡市保育協会青年部の東北視察も今回で五回目を迎える。行く先々の風景を懐かし

すると共に、東北へ関わり続けられることを嬉しく思う。バスの車窓から見える景色ひとつひとつを五年前の景色と重ね合わせる。「頑張ろう東北」の垂れ幕を前面に掲げたトラックが数珠つなぎにすれ違う。被災箇所に点在する重機には人が乗っていることはまれ。人、物、財源、政府による支援、四年たつた今でも十分だとは言えず、復興もまだ十分ではないことが伺える。そんな中、今まで訪問を続けていた四ヶ園を今回も訪問させていただき、震災後四年間での変化について話を聞き、子ども達の笑顔に触れることが出来た。

青年部被災地レポート

Part 5

大井保育園
副園長 有松 徹

た。お別れを切り出そうとしたタイミングで柏谷園長先生の「あれ？今年はお祭りはして



吉里吉里保育園の子どもたち

大槌町にある吉里吉里保育園では、六十名の子ども達が私たちを出迎えてくれた。吉里吉里地区では大人の人口は減っているものの子どもは増えているという嬉しい話も聞くことができた。日本赤十字、台湾赤十字、カリタス・スイス等の支援により建てられた新園舎は、昨年の訪問時はやっと建ったばかりという状況で、「とりあえず今日の保育で一杯」という印象があった。しかし昨年と比較すると今回、遊具などの保育施設がずいぶん充実していることに気づく。また、芳賀明美園長先生を初め先生方の表情がずいぶん明るくなったことを感じた。そのことについて園長先生に尋ねてみると、「三年前は毎日借金の事が頭から離れなかったが、園の借金も返せし、支援のおかげで物に関してはずいぶん充実してきた。後は子ども達をどう育てるかですね」と穏やかな表情で話された。



大槌保育園での様子

大槌保育園は津波により園舎の殆どが浸水した。補助金を得るために原形復旧が条件だったので、外壁はそのままで、園舎内を全て元の形に戻したという。家も少しずつ建ってきたが、



堤乳幼児保育園でカマキリ発見！

ども達の生活に変化が起きているようで、町の一年生の一割が不登校になっているという実態を聞かせて頂いた。親の心が不安定になっても心のコントロールができない状況だということだ。また、

大槌町のこれからはわからないから、みんなどう動いていいか(残るべきか出るべきか)わからない」と話された。保護者の四割はまだ仮設住宅で生活しているという現状だが、それでも当時の子どもや保護者が離れずにまた保育園に戻ってきてくれたことを嬉しそうに話してくれた。いつも笑顔が印象的な園長先生が「避難訓練の大切さ」を話して下さったのが「避難訓練の大切さ」だ。二月に日時通告なしで避難訓練したんですよ。全員避難できたのはそのおかげです。」と八木澤先生。青年部員からの「お昼寝中にも訓練するのですか」という問いに「皆さんは子どものお昼寝を中断することと子どもの命を失うことのどちらを避けたいですか」と尋ね返され、一同言葉を失った。大槌保育園は園長先生のこの覚悟を守られたのだ。「今後も内緒の避難訓練をやり続けますよ」という言葉で話を締めくくられた。

震災後四年の間、青年部は毎年訪問を継続し今年に至るが、その間各園の先生方は今後の不安を感じながらも希望を持ち毎日保育しているのだということを改めて感じた。各方面の補助により物やお金の面は少しずつ充実してきた中、これからはどんな方法で被災地の皆さんを笑顔に出来るのだろうかと考えた。第一回訪問時に青年部員全員で「何を持って行くか」「どんな支援が必要だろうか」と話し合い、「まずは自分たちが顔を出そう。みんなと話そう」という結論が出たことを思い出す。みどりが丘保育園の七役園長先生による初回訪問時の話もよみがえる。「私たちが恐れているのはお金がない」「お金がない」ではありません。震災から一年、二年が経過し、震災のことが被災者の事を忘れられることが一番怖いのです。少しでもいいので一年間で何回か私たちの事を、私たちの生活を思い出してください。」

これから先も、私たちに出来ることはたくさんありそうだ。



笑顔にたくさん触れられる訪問となった

NEW!! 新園紹介

天星丸保育園

理事長・園長 須藤 値永

定員 60名

当園は南区にあります西鉄大橋駅とJR竹下駅をつなぐ通称『芸工大通り』の中間に位置し、塩原小学校の正面にあります。

住宅地のため住宅が隣接しており、毎朝お隣さんとフェンス越しに「おはようございます」の掛け声から始まります。

狭い敷地のため住宅側の壁は最小限の窓にするなど、お隣への音の配慮をしております。

園舎中心にある吹き抜けは音を集め、建物の中心から上に流します。

最小限にした窓を補うために、吹き抜けから自然光を取り入れる工夫など「地域との共存」をテーマにした園舎です。

地域の「財産・生活・生命」を守ることに。これが私どもの使命ととらえ保育園運営を行ってまいります。



こひつじ保育園

園長 有吉 和寛

定員 40名

当園は平成27年4月1日より「松原こひつじ幼稚園」の隣に姉妹園として開園しました。同敷地内には南区ひばる子どもフリースペースも運営しており、子育て支援の拠点として地域の皆様に身近な施設に感じていただけるよう日々頑張っています。

こひつじ保育園の保育理念として次の事を掲げています。

- ・ たくさんのお愛に包まれ、愛されていることを感じ取れる子ども
- ・ こころもからだもすこやかで明るい子ども
- ・ 豊かな想像力・創造力を持つ子ども
- ・ 自分で考え、判断し、行動できる子ども

自然豊かな広い園庭（こども森）で、毎日思いっきり遊ぶ時間を過ごすごとに、子どもたちも職員も表情は穏やかで、感性豊かに育っています。

核家族・少子化の時代に新しい施設としてどのような地域貢献ができるのか、今後の課題だと思っております。

皆様のご指導・鞭撻の程を心掛けてまいります。



脇山保育園

園長 井上 二三乃

定員 70名

公立から民間委託を受け、この4月に開園いたしました。歴史200年余の万徳寺が昭和6年、農業の傍ら草の上に寝せている子どもたちを預かったのが現保育園の始まりと、万徳寺の住職様に教えて頂きました。万徳寺保育園から数えると、脇山保育園の歴史は84年もの間運営され続けています。

脇山は市街化調整区域で、手入れの行き届いた田園が広がる美しいところです。八十八夜には、地域の方の招待で茶摘みをしてそのお茶を頂くという貴重な体験をしました。また、散歩に出かけると「土手」を「列」になって帰ります。田植えの前には水着になって、田んぼでどろんどろん遊びもします。地域の皆様の温かさの中で「生きること・食」の原体験をさせていただいています。子どもたちは地域と保護者、保育者の連携の中ですくすくと育っています。脇山の美しい日本の原風景が、愛となつて子どもたちに記憶されることを願っています。

地域・子どもを為に由緒ある保育園を大切に受け継ぎ「社会のルールを守る」規範意識、「自分がかげがえのない存在だと思おう」自己肯定感、「学びを楽しむ」意欲・向上心が身に着くよう努力してまいります。



伊都コスモス保育園

園長 青崎 紀一

定員 120名

福岡市西区西部地区。戸建てとマンションが混在し、子どもと大人の元気な声が飛び交う生き生きとした地域に平成27年4月より社会福祉法人聖会伊都コスモス保育園を開園いたしました。子ども達が「遊びたい！やってみたい！」と思えば、自主性を持って活動できるように玩具、教材を壁のないオープンスペースの保育室に配置しています。保育士の優しい見守りと言葉かけにより、安心して生活や遊びに取り組みめるような温かい雰囲気での保育を実践しております。

それぞれの子どもたちが「自分のペース」で、「自分自身の能力を高めていくこと」を保育理念とし、「0、1歳児」と「2、3、4、5歳児」の縦割り保育のなかで、ほんの小さなこどもでも「笑顔で言える、認める」ということを学ぶこども達と全職員が関わっています。

安心で安全な「空間」、ゆたかな「時間」、信頼できる「仲間」。3つの間を確保し「いつまでも遊んでいたい保育園」を目指すと共に、保護者や地域の皆様のお役にたてるよう頑張っています。



リターン回想 「振り返ると、三十六年」

社会福祉法人 輔仁会 すけにんかい

理事長・統括園長 大浦 純平

協会の役員を降板し、時間に余裕ができた今、影絵の背景作りに熱中している。やっと使用に耐え得る液晶プロジェクターに出会い、デジタル化することが可能になった。影絵の世界ではデジタル化について賛否が分かれているが、準備段階での制作時間軽減や上演中、背景担当を割けることで、職員の負担を減らすことが出来るし、何より色使い、表現力、場面転換が驚くほど良くなる。子どもたちに気に入ってもらいたいとワクワクしながら取り組んでいる。

名」を開園し、以後、両園は福岡市の要請を受けて増員・増改築を繰り返してきた。

し、振り返ると、保育に関わって三十六年経っていた。

事等、身の丈以上のことに挑戦し好評を得ても、気が付けば子どもたちや職員への負担、近隣への迷惑がそこにはあり軌道修正をしたことも度々あった。

た。詳しくは法人ホームページをご覧ください。その輔仁会も設立から五十年を経過し、現在、つぼみ保育園・さわらび保育園・新宮つぼみ保育園の三園と二つの分園を合わせ、五施設を運営している。これも、今まで勤務して頂いた多くの職員の方々に支えられ、保護者の皆様にも多くのご協力を戴いたお陰だと感謝している。この間、お預かりした園児の総数は約五千七百名、勤務頂いた職員数は現職も合わせ七百名にのぼる。

私は、昭和五十二年に二十八歳で民間企業を退職し、保母養成校で保母資格を取得した後、昭和五十四年にさわらび保育園に入り、保父として現場を四年間経験し、昭和五十八年にはつぼみ保育園の園長に就任した。同年、老朽園舎建替工事が予定されており、その準備で徹夜したこと、経理が複式簿記に転換し、机一杯に三枚写しの伝票を広げ仕訳したこと等、全てが初体験で大変だったことを覚えていいる。

さらに、福岡市保育協会とのことを振り返ると、昭和六十一年の青年部発足に端を発する。三期六年の部長、及び、全私保連青年会議の役員を経験を含めた十二年間の在会時に、市内は基より全国レベルで知己を得たことは貴重な財産となっている。

輔仁会では母から私へと受け継がれ、その母も三年前に亡くなり、私も次世代に輔仁会を渡す準備をしなければならぬ年齢になってきた。設立から五十年経った今、母の遺志を大切に、更なる充実を図りながら、この世界に生きたことを矜持とし、スマートな幕引きができれば良いと思っている。

その他、キャリアパスの制度化や自己評価とその公表の方法、マインナー対処等々に頭をひねっている今日この頃だ。

以後、何とかハードルを越えながら二十年経過し、平成十五年には母は法人会長となり、私に理事長を託し、法人の切り盛りを任せられることになった。

母の時代から今まで、保育園の行う「教育」と「養護」について常に職員と共に研鑽を繰り返し、積み重ね、吟味をしながらよりよい保育を行うことを心がけてきた。子ども達は連続とした日々の営みにより育っている、十分に遊び込むことが出来る物的環境があることと、子どもたちと保育者、保護者と保育者の間にしっかりとした信頼関係をもてる人的環境があることの二つが大切であり、そこに力を傾注することが「保育の王道」だろう。しかし、時には行

さて、寄稿の機会をいただいたので私の保育への関わりを少々振り返ってみよう。

設立の頃を振り返ると、福岡市は昭和三十三年に保育園の量的拡充を図り福岡方式をスタートさせた。当時、博多区の保育園で主任保母をしていた母は市の説明を受け、自分でもできると確信、家に戻り興奮気味で「私、保育園を作るわよ」と目を輝かせていたのを覚えている。私が高校一年生の時だった。

時を同じくして新宮町の保育園設置者の公募があり、応募した多くの事業者の中から指名を受け、平成十七年に「新宮つぼみ保育園（定員百二十名）」を開園した。

「輔仁」は祖父が論語の一節『曾子曰く、君子は文を以て友を会し、友を以て仁を輔く』から母に贈った。祖父は「保育園にとつて、最も大切なものは人である、特に人と人の関係が良好に運び、お互いに啓発し合い向上してこそ素晴らしい子育てのお手伝いができるのだよ」と伝えた上で、「仁（子）を輔（助）ける」と洒落

平成二十二年には「つぼみ分園」を、二十六年には新宮中央駅前「新宮つぼみ分園」を開園

五月二十九日の総会で最後のお役目を終えブラザの女関で西尾編集長が撮影



（この寄稿により、振り返りの機会を頂いた美しくて強引な木林純子先生に心から感謝申し上げます。）

今、旬く死んでくれた

めぐみ保育園 副園長 本田 陽介



命を解く

先日給食の前に保育者が「いのちをいただく」（講談社）という絵本を読み聞かせていました。この絵本の主人公は食肉センターで働く坂本さんで、牛の命を解いて（殺す、解体する）肉にする仕事が嫌で、いつか辞めようと考えています。

ある日坂本さんの職場で、牛の腹を撫でながら「ごめんね」と話しかけている女の子に出会います。一緒に育ってきた大事な牛とお別れしていました。その子のおじいさんから「どうぞ、明日はよろしくお願いします」と言われた坂本さんは「この仕事を辞めよう。」と思いついた。家に帰った坂本さんは今日の出来事を息子のしのぶ君に話します。しのぶ君は「お父さんがしてやったほうがよかよ。心のなかがいたら牛が苦むけん」「お父さん仕事は行かないけんよ」と言い残し学校に行きます。坂本さんはしのぶ君と約束したのでしぶしぶ仕事に行くことにしました。



読み始めはザワザワとしていた子ども達。牛の絵を見て笑う場面もありました。しかし少しずつ引き込まれ、最後には保育者も涙を見せ、子どもたちの中にも涙を見せる子どももいました。牛の死は子どもたちに様々な感情を生みましました。「牛を殺すこと

た。坂本さんは迷いましたが、手を差し出し、「ごめんよ」と言いながら女の子がしていたように、肩や腹を撫でます。威嚇していた牛も坂本さんに気を許し始め、「じつとじつとよ。動いたら急所を外して苦しまないけん、じつとじつとよ」と言い聞かせます。すると牛の瞳から涙が流れました。命を解くときが来ました。後日おじいさんが食肉センターにきてしみじみと教えてくれました。「あの牛の肉はもらってみんなまで食べました。孫は泣いて食べられませんでした。『ありがとう』って言うって食べてやらなかわいそろう。食べてやんなつせ」と言うたら「みいちゃんいただきます」と泣きながら食べました。ありがとすごかったです」という台詞で締めくくられています。

あふれだす思い

「いただきます」「ありがとうございます」その数日後、食肉センターに頼んでおいたアイガモたちが、冷凍された肉になって保育園に帰ってきました。例年はその様子を子どもたちに見せずに、料理した物を取獲祭で食べて見せてみることにしました。



アイガモは自分たちが一緒に暮らしていたころとは姿を変えていました。アイガモはアイガモ肉になり、冷凍パックの中の血を見た子どもは「気持ち悪い」「かわいそう」と驚きながらつぶやいてい

は、かわいそう」「僕たちのために死んでくれたんだから食べなきゃかわいそうだ」など様々な意見が聞こえてきました。「収穫祭でアイガモも食べるから、絵本の牛と同じだよね」保育園で育てたアイガモに結び付けられる子どもも出てきました。給食で食べた魚や野菜との共通点も気づき始めていました。子どもたちそれぞれが様々なことを感じ、それぞれの結論にたどり着いています。



そんな中である女の子が言いました「かわいそうだけど、ずっと田んぼにいたらお米を食べちゃうよ。だから私たちが食べてあげないと、みんなに嫌われちゃう。」給食を食べながらその女の子ともう一度話してみました。「アイガモさんがお肉になってびびくりしたけど、食べないのはもったかわいそうだよ。『いただきます』『死んでくれてありがとう』ってことなんだよ。だからお血がきれいになるまで残さず食べるの。」今年の収穫祭では、子どもたちがどんな顔でアイガモを食べるか楽しみにしてきました。



ました。アイガモの肉を実物で見せることは、子どもたちにとって良いことかわからなくなっていました。

編集後記

これまでの四回の「あり方検討委員会」やこと未来局との話し合いを通じて、「役人って、いったいなんだろう?」というのを考えています。法学者末弘敏太郎（すえひろいずたろう）さんは、「役人学三則」（岩波現代文庫）の中で、「いかに相手の言うことが条理にかなっているか」とも、容易に頭を下げるようではないけない。条理などは無視して法規一点張りて相手手をねじ伏せなくてはならない。そうしないと役人は出世できない」と述べています。

平成二十七年からの新制度の開始にあたり、混乱がないようにこれまでの制度を守るようにするのはなく、(予算を) 削れるところはないかと知恵を絞る姿勢は、「役人学三則」で書かれている世界そのものです。

十月二十八日に開かれた「第四回あり方検討委員会」において、長時間保育手当」は、要綱に書かれてきた目的と性格に齟齬(そご)をきたしているから、「手当」は廃止すると結論を出しました。委員の議論を聞きながら、福岡における「長時間保育手当」は、十一時間開所に伴う手当ではなく、保育士の処遇改善のための手当になっていることを、これまでの繰り返し説明してきたのに、ほとんどの委員が理解していないのに失望しました。「長時間保育手当」を要綱に定め、実施してきたのは福岡市です。「あり方検討委員会」では、保育士の処遇の向上が大切だという点は一致しているのに、なぜそれに代わる方を福岡市は主体となつて考えないのか? 納得がいきません。



『役人学三則』が出版されたのは昭和六十八年。八十数年前の本なのですが、役人の本質は変わってはいないと感じました。(西尾)